

# 成蹊会誌 61

1985年6月







八 昭和六十年入学試験状況

	募集人員	志願者	合格者	補合格者	欠格者	入学完了	続学	成蹊各学	校推者	外部から	高校推
											名
大 学	経済学部	400	6,655	766	42	283		68			63
	工学部	280	5,912	498	51	189		27			73
	文学部	390	4,832	767	96	263		33			78
	法学部	350	5,775	616	0	272		57			42
	計	1,420	23,174	2,647	189	1,007		185			256
高等学校	約 90	417	119	0	62		255				
中学校	約110	727	116	14	113		128				
小学校	114	658	114	21	114		—				

海外帰国子女関係

大 学	志願者	合格者	中学校 (国際特別学級)		小学校 (国際特別学級)	
			1 年	2 年	5 年	合格者
経済学部	18名	11 (7)名	29	11(11)	21	11(11)
工学部	1	0 (0)				
文学部	17	6 (4)	20	3 (3)		
法学部	31	8 (5)				
高等学校	66	20 (7)				

\* ( )内は入学手続完了者

九 中村春二記念室

◇記念室目録解説について

中村春二記念室の資料解説について、成蹊実務学校時代、中村春二先生に直接教えを受けた実務九回卒業の川瀬一馬氏(書誌学者・文化財審議会専門委員)の編纂による「中村春二先生記念室目録解説」を実費で頒布いたしております。  
この解説書は、中村春二先生の教育の理想と実際とを理解する上で大変貴重な解説書であります。

(成蹊学園 総務課)

十 大学の近況

◇昭和六十年度父母懇談会について

在学生父母を対象とした父母懇談会は、一昨年以來全国各地で開催しておりますが、本年度の予定は次のとおりです。

開催日	開催地	会 場
六月二十三日(日)	札幌市	札幌全日空ホテル
六月二十九日(土)	名古屋市	名古屋ターミナルホテル
七月十三日(土)	広島市	広島全日空ホテル
七月二十日(土)	福岡市	博多全日空ホテル
九月十四日(土)	金沢市	金沢都ホテル

◇経済界のトップを講師に迎えて

——「現代日本経営論」の開講——

本学経済学部経営学科では、日本経済界の第一線で活躍する左記の方々を講師に迎えて、本学四年次生および一般聴講生を対象とした専門科目「現代日本経営論」を開講しました。

- 「これからの経営」 野田信夫先生(成蹊大学名誉教授)
  - 「貿易と国際経済」 石井正巳先生(三井物産株式会社社長)
  - 「通貨価値安定—その側面と方策—」 前川春雄先生(前日本銀行総裁)
  - 「経営者の人を見る目」 朝倉孝吉先生(成蹊大学学長)
  - 「技術と経営」 盛田昭夫先生(ソニー株式会社社長)
  - 「建設産業と品質経営」 石川六郎先生(鹿島建設株式会社社長)
  - 「成熟社会と今後の経営」 伊藤雅俊先生(株イトーヨーカ堂社長)
- △期間 本年四月より七月まで

◇全日本学生弁論大会で受賞

去る一月二十二日サンケイ会館で開かれた「第一回土光杯全日本学生弁論大会(フジサンケイグループ行革キャンペーン実行委員会主催)」に本学から森一陽君(本年三月法卒)が出場、最優秀賞を受賞しました。

(成蹊大学事務部)

十一 中学・高等学校の近況

◇カリキュラムについて

中学・高等学校では、教育課程を一部手直しし、改訂した。この

改訂の留意点は、「中高六年のうち、前半の四年間を基礎的な学力の養成を目的とし、基本的な内容を中心として共通に履修させ、後半の二年間は、能力・適性に応じ、より深い学習を目的に科目を選択して履修する選択制を一部導入し、併せて、大学進学に対応する。特に、中学低学年では情操教育の充実につとめる」ことである。その結果、新しい教育課程で従来のものと変わった主な点で次の通りである。

- 一、中学一年から高校三年まで全学年週33時間とする。
- 二、中学一年で、美術・音楽をそれぞれ一時間増加する。
- 三、社会科・理科で各科目の整理・配置の変更を行い、選択制を手直した。
- 四、高校二年に複数教科にわたる選択制を導入し、高校三年の課程への対応に弾力的とした。その結果、高校二年の選択履修形態は八類型となる。
- 五、高校三年では、高校二年の選択制導入に関連して、従来のコースの一部手直しが行われ、全体に大学進学へより弾力的となった。選択履修形態は九類型となる。

近年、成蹊高校生の進路はかなり広い範囲におよび、あらゆる大学のあらゆる学部・学科に進学する状況である。こうした生徒の進路の多様化に対応するためにも、高校段階での学習はいろいろな科目の選択・組み合わせで、多様な履修形態が可能であることが望ましい。今回の改訂はこのような趣旨をもふまえている。

現在、臨時教育審議会において、種々教育改革が論議されているが、成蹊では中屋健次校長(昭和五十年〜五十三年在任)以来、建学の精神に基づいて、中高の一貫教育を推させてきた。今後この方針にそって、教育の前進をはかりたい。

(羽田野孝通・中学・高等学校教頭)



◇「創意育成功労学校」として科学技術庁長官から表彰される



表彰を受けた学校は、全国小・中学校で四十校。都内では成蹊小学校一校でした。今回受賞したのは、東京都児童発明工夫展でこの三年間続けて「学校賞」の対象になってい

ども受けています。

◇桃の会（子どもの会）から王滝村へ災害見舞い金を贈る

昨年十一月末、地震の被害を受けた長野県王滝村の人々に見舞い金を贈ろうと、桃の会委員会の子ども達が中心になって、校内で募金活動を行いました。小学校中央館入口付近に置かれた募金箱に、小さな一年生もお金を入れている姿を度々見かけました。

こうして集まった好意のお金は、十七万七千九百九十九円になり、次のような子どもの手紙を添え、桃の会委員長（六年生）の名で、王滝村へ郵送しました。

○お手伝いをしてもらったお金です。

○たった三百円でごめんなさい。でもどうかお役に立ちますようにお祈りしています。くじけずがんばってください。

この子ども達の活動に対して、昨年暮には家高村長からお礼の手紙が送られ、更にこの四月には、王滝村小・中学生の体験記を編集した『地底からの叫び―立ち上がる王滝村の子どもたち―』の一冊の本が送られてきました。全校朝会で、校長がこの中の二、三篇を読み、全校児童に紹介しました。（一部「学校と家庭」から抜粋）

◇創立七十周年を迎えて

今年、小学校創立七十周年にあたります。これを機に、以前に本誌で紹介しました重点目標を念頭におき、現在の子どもの実態と私ども教育実践者としての指導の反省等をテーマに四月に話し合

い、着実に歩むよう努力しています。

成蹊高等学校（旧制）開校60周年記念事業

大正14年（1925年）に設立された旧制成蹊高等学校（七年制高等科三年・尋常科四年）は本年開校60周年に当たりますので、数年来、旧制高校同窓会において会合を重ね、次のような記念事業を企画し、昨年7月趣意書を旧制高校卒業生全員（住所判明者約1650名）に送付いたしました。

趣意書

成蹊学園70余年（1912年創立）の歴史を顧みますと、旧制高校の果たした役割は極めて大きいものがあります。旧制高校は、大正14年（1925年）に創立され、戦後の学制改革に伴い昭和25年（1950年）に終止符をうち25年間の幕を閉じました。

仮りに、成蹊学園の歴史を三期に分けますと、第一期は創立者中村春二先生の池袋時代、第二期は地を吉祥寺に移して開設された七年制高校時代、第三期は大学の開設と新制度による小・中・高校の時代といえましょう。

いわゆる、第二期の七年制高校は教学的には浅野孝之、土田誠一両校長のもとで優れた教育者、学者を擁し、財政的には理事長岩崎小弥太氏の後顧の憂いをなくして、少人数による人格教育を実践して「古き良き青春時代」であったと思われます。戦後は多少の混乱がありました、よく戦前の伝統を引き継ぎ名誉ある終えんを迎えるに至りました。

旧制高校卒業生は現在約1,900名を数え、齢も52才～77才を超えんとしております。この機会に、旧制成蹊高校の教育理念と存在価値を後世に伝えておきたい、かつ、将来にわたる学園の教育振興にいささか寄与したいとも念願し、次のような記念事業を企画いたしました。

1. 旧制成蹊高等学校回顧録の刊行配付
2. 旧制成蹊高等学校を象徴する記念碑の建立
3. 成蹊中・高校（新制）に対する教育振興基金の設立

上記事業のうち1と2は現在着々と進行中で来る7月には完成落着の運びとなる予定にしております。一方募金は一応3月末日をもって締切りましたが当初の目標金額2,000万円（1口3万円以上）を遥かに上回る2,869万円（4月末日現在の寄付金（個人455名・法人8社）が集まりました。なお、この募金についてご失念の方や未だご存知なかった方には、今後ともお受けいたしております。

この記念事業が旧制高校生各位のご協力により、予想以上の多くの方々からお力添えをいただきましたことを深く感謝申しあげますとともに、ご賛同者には来る7月にご披露のご挨拶状を差しあげる予定にしております。また、学園ご当局におかれても多大のご協力を賜わり厚く御礼申しあげる次第です。

# 成蹊会報 告

昭和59年11月1日  
昭和60年4月30日

## 一、会 議

### ○理事 会

- 第91回理事会（60年3月26日）  
成蹊会年会費改訂の件  
(1) 昭和60年度成蹊会事業計画・収支予算案承認の件  
(2) 成蹊会評議員候補者推薦の件（理事会推薦）  
(3) 同 窓 会

### ○同 窓 会

- 旧高委員会（59年11月5日）法学部幹事会（59年12月4日）  
小学校幹事会（60年2月5日）池袋同窓会（60年2月16日）  
文学部役員会（60年3月16日）工学部幹事会（60年3月16日）  
やよい会委員会（60年3月16日）法学部委員会（60年3月19日）  
ブレネ幹事会（60年3月20日）政経学部委員会（60年3月22日）  
旧高委員会（60年3月25日）高校委員会（60年3月29日）  
経済学部幹事会（60年4月2日）やよい会総会（60年4月6日）  
文学部同窓会総会（60年4月7日）

### ○支 部 会

- 関西支部会（59年11月16日・大阪市）  
中国支部会（59年11月17日・岡山市）  
東海支部会（60年1月28日・名古屋市）

## 二、催 事

### ○第62回枯林忌（60年2月16日）

中村春二先生墓参（東京・染井墓地）と追悼会（三菱スポーツセンター）

## 三、事 業

### ○成蹊会誌第60号発行（昭和59年12月1日）

### 四、会費改定

- 年会費改定（60年3月26日・第91回理事会承認）  
(1) 年会費二年分四、〇〇〇円（60年4月1日より実施）  
(2) 改定の理由

年会費は物価にに応じてその都度改定してきたが、本年度は総合会員名簿を発行する予定もあり、一か年につき二五〇円増額願うことにした。（従来は二か年分三、五〇〇円）

## あ と が き

○新緑の候、いつもながら母校のケヤキ並木は緑したり、太く、遅しく、見事である。成蹊会誌57号から表紙に学園の四季を連載したが、本号はそれを構成したものである。春夏秋冬いづれの時季を選んでも結構。どうぞお越しをお待ちしています。

○本号は特に外国通信欄を設け、海外で活躍しているOBの現地報告を掲載した。寄稿文を依頼するに当って、在外居住者を調べたが、大変な数なので材料に不足なく、次号からも是非つづけたいと思っている。世界各地からの生々しい情報にご期待願いたい。

昭和60年6月1日

編集兼発行人 谷 岡 喜 久 蔵  
発 行 所 社団法人 成蹊会  
〒180 武蔵野市吉祥寺北町3-3-1  
電話 0422・51・2244